

◎ 社会科部門（中）

1 行事及び内容

月 日(曜)	活 動 内 容	活動場所	参加人数
6月 2日 (金)	第1回小中学校社会科教育研究委員会 ○年間事業計画等作成 ○県中社研理事会報道	天草教育会館	研究委員 6人
6月30日 (金)	天草郡市中学校社会科部門第1回定例会 ○本年度の研究についての共通理解 ○本年度の研究授業について ○情報交換	天草教育会館	12人
8月 2日 (水)	天草郡市中学校社会科部門第2回定例会 ○天草郡市の研究テーマについて ○熊本県中学校教育研究会社会科部会の阿蘇合宿 研修の復講 ○データ交換 ○情報交換	天草教育会館	10人
9月 8日 (金)	上天草部会指導案検討会 ○授業提案 ○指導案検討	上天草市立松 島中学校	8人
9月19日 (火)	天草郡市中学校社会科部門第3回定例会 ○授業提案 ○指導案検討	天草教育会館	11人
11月7日 (火)	平成29年度天草教育研究所中学校社会科部門研究 発表会 ○授業者 上天草市立姫戸中学校 下田章司教諭 「オセアニア州」 ○授業研究会	上天草市立姫 戸中学校	25人

2 天草教育研究所 中学校社会科部門 部門別研修会

本年度は、天草郡市で共通した実践を行うために、郡市の社会科研究テーマを

「社会に関心を持つ生徒を育てる社会科学習の創造」
～教科書の効果的な活用を中心として～

と設定して取組をスタートさせた。具体的には、郡市社会科教師全員の授業力向上に資するため、「汎用性」のある授業実践の充実を目指すこと。そのために有効なワークシートやパワーポイントデータ（授業展開）等を共有し、授業力向上のための「データ収集」に力を入れた。

また、データや資料などの共有化にあたっては、著作権について十分配慮し、慎重に行うことを確認した。

天草郡市では、3年前から研究授業等をブロックごとの持ち回りで担当するように組織化している。本年度は上天草ブロックが授業を担当した。授業者は上天草市立姫戸中学校の下田章司教諭が快諾し、教科書の活用を中心に据えた「オセアニア州」の授業提案をした。授業提案にあたっては、上天草ブロックにおいて主体的かつ積極的に指導案検討に関わり、組織体としての授業提案となった。

授業内容は中心課題を（オーストラリアは）「なぜ欧米よりアジアとの貿易が増えたのだろうか？」と設定し、多面的・多角的な視点から課題追究することをねらいとした。

導入では、授業者の下田教諭がウルルに登頂した写真を紹介し、生徒の興味関心を高め、「さぐる」の段階では、オーストラリア側から見たアジアとの関係を、オーストラリアを中心とした正距方位図法や輸出品目の変化の資料を提示して追究させた。さらに、「ふかめる」段階で、アジア側に視点を切り替え、アジアにとってのオーストラリアとの交易の重要性に気付くことができるように展開した。言語活動では、「アジアにとってオーストラリアは〇〇だ」と見出しを書く活動を設定したことにより、授業が大いに盛り上がった。途中、アジア側の立場への視点の切り替えにとまどった生徒もいたが、どの活動にも一生懸命参加し、とてもよい雰囲気での授業となった。新学習指導要領に則った、資料から自分の考えをもち、自分の考えをペアや班活動での話し合いで広げ、全体の練り上げで深める活動ができていた。参観していた教師も自身の取組の参考にすることができた。

この研究授業は、もう一つのしかけとして、あえて年間計画をやりくりし早めに授業実践を行うことにより、参観者が学校に持ち帰り自校において授業実践を検証できるようにした点もよかったと思っている。

その後、姫戸中学校図書室で、授業研究会を行い、資料の精選と効果的な活用、授業展開、まとめ、振り返りなど、有意義な話し合いが行われ、それぞれの学校へ持ち帰っての実践に生かされた。

→中学校社会科部門 部門別研修会のアンケート結果

- 教科書にある資料を活用する授業がなされていて、どの先生もできる授業になっていたのが、とても参考になり勉強になった。また、デジタル教科書も私も日頃から活用しているのでとても有意義でした。
- 教科書の資料活用を基本として、授業が考えられており、汎用性のある授業だったと思いました。
- 探る場面で、どんどん班での意見交換の場があってもよかったと思います。
- 生徒が主体的に学び、教員がそれに応えようと授業を工夫する姿が見られ、中学校のあるべき姿だったと思いました。
- 授業の設定をあえて、やりくりしていただき、年間計画より早めに行うことで、授業参観者が自校へ持ち帰り、検証授業ができるという試みも有り難かった。

3 成果と課題

(1) 成果

- ① 3年前から導入した、ブロック毎の授業提案が軌道にのり、広域である天草の特性(課題)に対応した組織体としての提案ができた。
- ② 指導案検討会を重ねる毎に指導案が充実したものとなり、若手教師にとって授業作りの過程を具体的に学ぶ機会をもつことができた。1校1社会科教師の現状において貴重な学びの場となった。
- ③ 各自が作成したデータを共有したことで、教材研究の質の高まりが見られた。
- ④ 郡市の研究テーマを設定したことにより、同じ方向で研究を進めることができた。

(2) 課題

- ① 天草は広域であるため、指導案検討会への参加が容易でない教師もいる。
- ② データの収集は今後とも続けていく。収集したデータを生かすための取組が必要である。
- ③ 著作権については今後とも研究していく必要がある。

(3) 要望

特記事項なし